

ビデオ 通信

2021年
12月27日(月)
No.4532

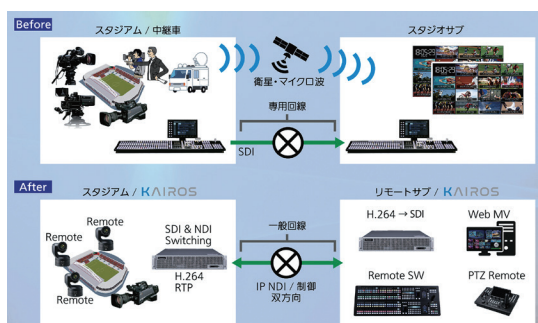
月・木曜日発行
月額：¥11,000(税込：¥11,880)
発行：飯澤 剛
編集：齋藤 浩一

ユニ通信社

〒114-0024
東京都北区西ヶ原 3-57-17-202
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

パナソニック映像

「リモートプロダクションサービス」を開始 KAIROS を核とした対応環境を東京オフィスに装備



パナソニック映像㈱が、「リモートプロダクションサービス」を開始した。同サービスは、次世代ライブ映像制作 IT/IP プラットフォーム「KAIROS」とネットワークの活用により、With コロナ時代におけるイベントや展示会の課題を解決するもの。同社は、東京・天王洲の「チャンネルアートモーメント品川 2021」における映像／配信サービスや、大阪で実施された Vリーグ・バレーボールの中継配信等によって実践的な知見とノウハウを十分に

蓄積するとともに、東京オフィス内に「KAIROS スタジオ（仮）」を開設し、「リモートプロダクションサービス」に対応する環境を整えた。同社では「ハイブリッドイベント」「スポーツ系」の2つの領域をメインターゲットとして、積極的なアプローチを展開していく。

ハイブリッドイベントとスポーツ系をメインターゲットに

同社が展開する「リモートプロダクションサービス」でメインターゲットとしているのは、「ハイブリッドイベント」と「スポーツ系」の2つの領域だ。

同社は、8月28日にオンライン開催された「チャンネルアートモーメント品川 2021」における映像／配信サービスを担当した。「KAIROS」を中核として、PTZカメラやドローンを含む10台以上のカメラ映像、3つのビル壁面に高輝度プロジェクターに映し出すプロジェクションマッピングの出力、YouTube Live によるリアルタイム配信など、映像系の全てを一元的に運用・制御し、イベントの開催およびオンライン配信をサポートした。また、会場である天王洲運河を挟んで映像を撮影するために対岸に設置したリモートカメラの制御や映像伝送を次世代無線 LAN 規格である「WiGig」によるワイヤレス伝送で実現している。



同社取締役の竹内誠一氏は「リモート&ネットワークを活用してここまで大規模な案件を手がけ

るのは初めてでしたが、リアルで撮影・表示しつつ同時に配信も行い、さらに収録素材を使って後でコンテンツ制作を行う領域まで含めて広く対応できる知見とノウハウは、このフェスティバルで十分に蓄積できたと考えています」と話す。

もう1つのターゲットとなるのは「スポーツ系」。同社では、今年3月に行われた「KAIROS クラウドサービス実証実験」に参加した。この実証実験は、枚方市のパナソニックアリーナで行われた日本バレーボールリーグ機構（Vリーグ）パナソニックパンサーズの試合の映像を、約10Km離れた門真市の制作スタジオでスイッチングするというもの。会場内で撮影した複数のカメラ映像をクラウドに即時伝送し、専用ソフトでリモートスイッチング等の映像加工を行い、簡単な操作でライブ映像の配信を行った。その結果、現場とスタジオ間の距離を感じさせないスムーズな配信を実現したという。

竹内氏は「今回はバレーボールでしたが、バスケットボールやサッカー、ラグビー、テニス、バドミントンなど、コート内で行われる他のスポーツでも十分対応できると考えています。プロだけでなくアマチュアスポーツに対しても積極的に提案していきたい」とする。



さらに、今年の Inter BEE 2021 パナソニックブースのメインステージで展開された離れた場所間によるボウリングマッチのライブ配信デモでは、同社のスタッフによるスイッチングが行われたほか、AR表示の領域も担当した。「当社ではAR/VRについても抱負なスキルと実績を有しており、ユーザーニーズにマッチした仮想空間の提案ができると考えています」（竹内氏）

「リモートプロダクション」からトータルサービスを提供

パナソニック映像では、東京都品川区の同社東京オフィス内に「KAIROS スタジオ（仮）」を開設し、「リモートプロダクションサービス」への対応環境を整備している。

代表取締役社長の宮城邦彦氏は「リモートプロダクション」は今後、加速度的に動き出していくと思っています。ネットワーク活用を不安視する放送局の人たちにも、当社がスポーツの中継をリモートプロダクションで実現した実績を説明すると納得していただけます。テレビの本放送や大規模なイベントにはまだ時間はかかるかも知れませんが、世の中には本当に沢山のスポーツイベントがあり、観てくれるファン層も多い。こうした領域から「リモートプロダクション」が広がっていくのではないかと考えています」とする。

また、竹内氏は「With コロナ」の中で、リアルなイベントができるようになりつつも、オンライン配信を継続したいというニーズは今後ますます高まっていくと考えています。その際、単にオンライン上にコンテンツを置くだけではなく、AR/VRなど仮想空間を活用したライブ配信などを加えた高付加価値化が求められます。当社では、「リモートプロダクション」による撮影・制作・配信だけでなく、イベントで活用する映像の企画・制作からコンテンツのオーサリング/アーカイブに至るトータルサービスをワンストップで提供できます。ぜひ一度ご相談いただきたい」と話している。

◇パナソニック映像 <https://panasonic.co.jp/cns/pvi/>



竹内誠一氏